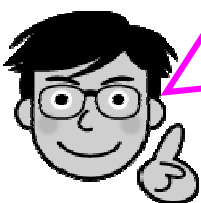


Scrum —スクラム—

平成24年度 『児童・生徒の学力向上を図るための調査』を 7月5日(木)に実施します!

内容



●小学校第5学年対象

- *学力向上を図るための調査(読み解く力に関する内容を含む)
- *学習に関する意識調査(児童質問紙)

●中学校第2学年対象

- *学力向上を図るための調査(読み解く力に関する内容を含む)
- *学習に関する意識調査(生徒質問紙)

●学校対象……学校に関する調査(学校質問紙)

ねらい

1 「より確かな学力の定着」に向けた教育行政施策へ

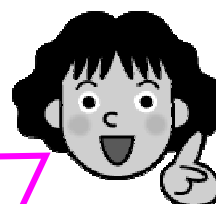
全都の児童・生徒の学力の定着状況を把握して、都教育委員会として「児童・生徒のより確かな学力の定着」に向けた教育行政施策を行うために生かします。

2 組織的な授業改善へ

それぞれの学校が、教育課程や指導方法等にかかわる自校の課題や解決策を把握することで、組織的な授業改善に取り組むことができます。また、それぞれの先生方が、調査結果の分析を基に授業改善推進プランを作成・実行することで、児童・生徒のより確かな学力を育むことができます。

3 家庭と連携した学習環境の整備へ

個人票等の返却により、学校と各家庭との間で、学習の成果や課題を共有することができます。学校と各家庭とが協力して、児童・生徒一人一人に応じた学習環境を整えていくことにつながります。



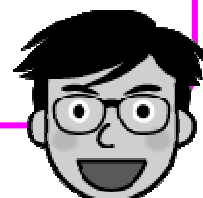
採点について

今年度から、全校で自校の先生方による採点となります。

今年度から、自校の先生方による採点を全校で実施します。このことにより、

- 調査の結果と個人票をより迅速に児童・生徒へ返却することができます。
- 児童・生徒の課題改善に向けた授業の改善に、より早く取り組むことができます。

児童・生徒の確かな学力の定着へ
御協力をお願いします。



調査実施の流れ

【調査前日まで】

- 業者から調査票・解答用紙等が届いたら、部数及び乱丁の有無等を確認する。
- 区市町村教育委員会からリスニング用CD、個人票作成プログラムCDが届いたら、リスニング用CDの音声の確認と、個人票作成プログラムの動作確認をする。

確認が完了したら、その旨を区市町村教育委員会に連絡してください。

*連絡方法は、区市町村教育委員会ごとに異なります。

【調査当日】 7月5日（木）

「実施の手引」の中の「監督者の手引」に従って、説明・実施してください。

- 調査票・解答用紙に、地区番号・学校番号・組・出席番号・名前（調査票のみ）が正しく書いてあるか、確認する。（回収時）
- 調査票と解答用紙を回収し、出席番号順に整理する。解答用紙と調査票の枚数と、出席児童・生徒数に違いがないか確認する。

当日 15:30 までに、調査実施状況を区市町村教育委員会に電話で報告してください。

【調査終了後】

以下のものを、7月9日（月）までに、区市町村教育委員会に送付してください。

抽出校

- 学校質問紙
- 実施報告票
- ◎解答用紙
- ◎児童・生徒質問紙
- ◎受検状況記録票

抽出校以外の学校

- 学校質問紙
 - 実施報告票
- （解答用紙等の提出はありません。）

答案返却
7/27（金）

- ・自校採点
- ・個人票作成プログラムへのデータ入力

8月下旬に東京都の平均正答率データの速報値を提供します。

入力

- ・提出の方法等の詳細については、「実施の手引」を御覧ください。
- ・個人票については、本メルマガの4ページも併せて御覧ください。

9月上旬
調査票・解答用紙・個人票の返却


9月中旬
結果データの提出
→都教育委員会で全都の結果集計を行います。

『児童・生徒の学力向上を図るための調査』の「採点要領」の活用について

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の実施に当たり、模範解答とは別に、『採点要領』を、区市町村教育委員会を通じて、全ての学校にデータ配信します（調査翌日までに配信の予定です）。模範解答に加え、誤答の原因・理由や、その設問を間違えた児童・生徒の実態を分析するための基礎資料です。採点をしながら、あるいは採点終了後に、当該の児童・生徒一人一人の学習のつまずきや課題を発見・分析し、授業を改善するための資料として、是非、御活用ください。

なお、都教育委員会が作成する「平成24年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査報告書」を12月に各学校へ配布する予定です。東京都全体の各教科の問題ごとの正答率や、調査実施校の約10%に当たる抽出校（無作為抽出）の調査結果に基づく各教科の問題ごとの分析結果などをまとめ、報告します。「採点要領」と併せて御活用ください。

【昨年度の「採点要領」より ～小学校社会科～】



調査問題

設問のねらい

「地図から標高及び、その断面図を捉え、その地形を読み取ることができるか」をみる問題

- ・正答は、「イ」である。
- ・誤答の要因として、次のようなことが考えられる。
- アを選択：大まかな地形の形状は読み取れていたが、標高を読み取ることができなかったことによるものと考えられる。
- ウを選択：東西の位置関係と標高を読み取ることができなかったことによるものと考えられる。
- エを選択：標高は読み取れていたが、東西の位置関係を読み取ることができなかったことによるものと考えられる。

●「正答」と「誤答の要因」

「ア」を選択した児童には・・・

- 山岳地や平野部などの地図を使って、標高線の読み取り方を指導することが必要です。

「イ」を選択した児童には・・・

- 資料を正しく読み取ることができています。複数の資料を比較・関連付けながら、よりの確に情報を読み取る力を身に付けさせましょう。

「ウ」を選択した児童には・・・

- 地図を見る際の基本的な決まり（方位・標高線・色分けの意味など）についての確認が必要です。

「エ」を選択した児童には・・・

- 複数の資料を使って、資料を比較する際の視点やポイントを指導することが必要です。

授業を改善するためのポイント!!

『児童・生徒の学力向上を図るための調査』における 児童・生徒一人一人の「個人票」について

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の採点が終了した後に、都教育委員会作成の「個人票作成プログラム」に採点結果を入力していただくことで、児童・生徒一人一人の「個人票」を作成することができます。児童・生徒が自分の課題に気づき、今後どのように学習に取り組んでいけばよいかを考えられるよう、各教科・設問ごとの調査結果や観点別のアドバイスを掲載しています。解答用紙と併せて児童・生徒に返却していただき、今後の学習への指針として御活用ください。

また、入力したデータを基に、学校全体の調査結果及び結果に応じた指導のポイントが記されている「学校票」も作成することができます。児童・生徒の課題を発見し、授業を改善するための資料として、御活用ください。

【児童・生徒個人票】（昨年度のを基に作成。今年度は仕様が変更されることもあります。）

平成24年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」個人票

学年	組	出席番号
5		...

平成24年7月
東京都教育委員会

表面

◆学力調査の結果

教科	A 教科の内容					B 読み解く方に関する内容					教科の合計正答率 (A+B)		
	知識・理解	技能	応用・実践	総合	個人	東京都	読み出す力	読み取る力	解決する力	個人	東京都	個人	東京都
国語													
社会													
算数													
理科													

個人		
東京都		

【読み解く方】について
 【読み出す力】 必要な情報を正確に取り出す力
 【読み取る力】 比較・関連付けして読み取る力
 【解決する力】 意図や背景、理由を把握・推察・推論して解決する力

◆問題ごとの結果

国語	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	時数
社会	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	時数
算数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	時数
理科	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	時数

◆読み解く

◆教科の合計正答率

◆学校ごとの結果

学年	組	出席番号
5		...

教科	個人	東京都
国語		
社会		
算数		
理科		

教科	個人	東京都
国語		
社会		
算数		
理科		

裏面

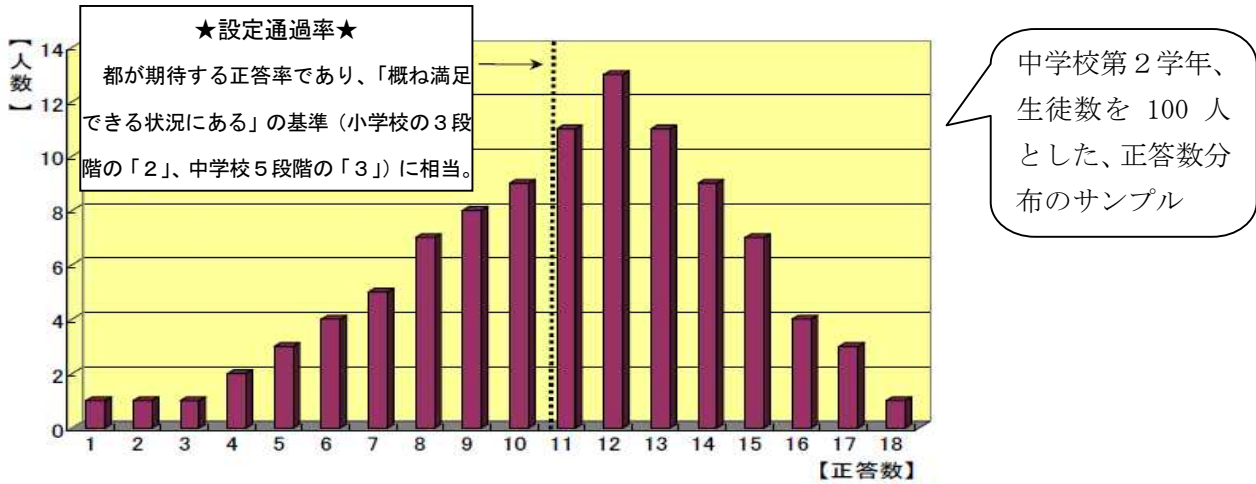
- 8月下旬に区市町村教育委員会を通じて、各教科の設問ごとに抽出校の調査結果をもとに算出した東京都の平均正答率の速報値を提供します。このデータを「個人票作成プログラム」に入力していただくことで、個人票にデータが反映され、児童・生徒が都の平均値と自分の正答率とを比較することができます。

調査実施後すぐに、解答用紙と都の平均値の入っていない個人票を返却することも可能です。その際は、都の平均値を入れた個人票を、8月下旬以降にあらためて配布する、あるいは、都の平均値の数値を別紙で配布するなどしていただくと効果的です。

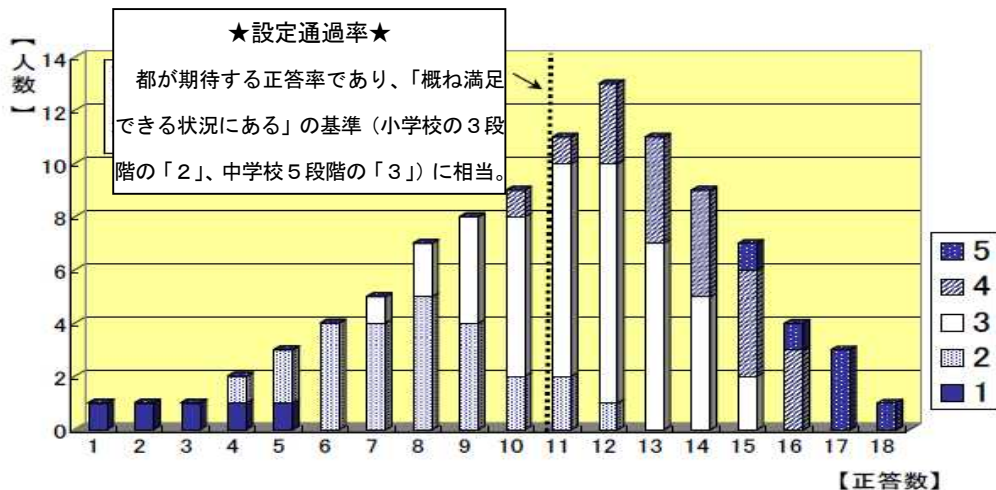
- 4 -

「評価値」を反映させた「正答数分布」について

調査終了後に「個人票作成プログラム」にデータを入力すると、個人票・学校票の他に、下のよう
な、学級・学年の「正答数分布」のグラフを作成することができます。



また、個人票作成プログラムの「評価値」の項目に、1学期又は前期の評定（小学校：3・2・1、
 中学校：5・4・3・2・1）をそれぞれ入力すると、そのデータを上の「正答数分布」に反映させ
 ることができます。下の中学校の例のように、それぞれの評定の児童・生徒がどのように分布してい
 るかが分かるグラフが自動的に作成されます。実際に各学校で行われている評価・評定はさまざまな
 資料に基づいており、1回だけのペーパーテストである本調査の結果とは正確に整合しないところも
 あると考えられますが、評価・評定を客観的に捉え直す一つの資料として御活用いただければと思ひ
 ます。



この調査が児童・生徒と学校にとって有益なものとなりますよう、
 御協力のほど、お願いいたします。

★ 本メール・マガジンの配信を希望する方は、件名に「メール・マガジン配信希望」、本文に所属・氏名を入力した
 だき、S9000024@section.metro.tokyo.jp へメールを送信してください。なお、本メール・マガジンは、pdf ファイ
 ルにて提供いたしますので、携帯電話では読むことができない場合があります。